

年間授業計画 様式

高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：2 単位
対象学年組：第 2 学年 A 組～ G 組
教科担当者：（ 田中 ）
使用教科書：（ 新編古典探究 東京書籍 みるみる覚える古文単語 300+30 いわず書店

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究 の目標：言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	宇治拾遺物語 「小野篁、広才のこと」 〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 〔思判表〕読むこと(1)ア、イ、ウ、オ	【小野篁、広才のこと】 1 帝の篁への疑いの原因と、その疑いを晴らしたものが、ともに篁の学才にあることを理解する。（手引き 1） 2 言葉遊びのおもしろさがどこにあるかを読み取る。（手引き 2） 3 「帝はほ笑ませ給ひて、事なくてやみにけり。」となった理由を考える。（手引き 3） □ 帝と篁のやりとりのおもしろさをまとめる。	○	○	○	〔知技〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 〔思判表〕 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 〔主〕進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうと	○	○	○	4
	十訓抄 〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 〔思判表〕読むこと(1)ア、イ、ウ、オ	1 定頼中納言の言動の内容を読み取る。（手引き 1） 2 小式部内侍の行った行動を読み取る。（手引き 2） 3 和歌文学、および和歌の技巧について理解する。 □ 登場人物の思いや状況、歌の工夫などを踏まえて、歌の良さを文章にまとめる。	○	○	○	〔知技〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 〔思判表〕 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 〔主〕進んで和歌を含んだ説話を読み取り、学習課題に絡んで展開のおもしろさを捉えようとしている	○	○	○	4
	宇治拾遺物語 〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 〔思判表〕読むこと(1)ア、イ、エ、カ	□ 知っている説話を挙げ、特徴を確認する。 【空を飛ぶ倉】 1 本文を音読する。 2 絵巻の描写部分と対応させながら内容を理解する。（手引き 1） 3 話のおもしろさについて考える。（手引き 2） □ 図書館やインターネットで、古典の説話等で法師が不思議な力を持ち発揮する話を検索する。 □ 各話について要約したり、特徴を表にまとめたりする。 □ 共通点等についてグループで話し合い、発表する。	○	○	○	〔知技〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 〔思判表〕 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 〔主〕進んで絵巻と本文とを関連付けて捉え、学習課題に	○	○	○	4
	徒然草【丹波に出雲といふ所あり】 〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 〔思判表〕読むこと(1)ア、イ、ウ、カ ○ 活読むこと(2)ア	【丹波に出雲といふ所あり】 1 主語を確認しながら、話のあらすじを読み取る。 2 聖海上人の言葉の変化に沿って、その心情を読み取る。（手引き 1） 3 この話のおもしろさは、どういうところにあるか説明する。（手引き 2・3） 【九月二十日のころ】 1 主語に注意しながら、話のあらすじを読み取る。（手引き 1） 2 人物の行動を整理する。（手引き 1） 3 作者の「その人」に対する評価をまとめる。（手引き 2・3） 4 絵の違いを見つけ、その違いについて考えたことを話し合う。（言語活動）	○	○	○	〔知技〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 〔思判表〕 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 〔主〕 ・進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	『徒然草』と『玉勝間』を読み比べる 〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 〔思判表〕読むこと(1)エ、カ、ク ○ 活読むこと(2)イ	1 「花」や「月」における見解の違いを読み取りまとめる。（課題 1） 2 「恋」における見解の違いを読み取りまとめる。（課題 2） □ 隨者文学としての『徒然草』の内容と文学的位置について理解する。	○	○	○	読む 〔言語〕『徒然草』と『玉勝間』を読み比べる P28 1 時間 〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 〔思判表〕読むこと(1)エ、カ、ク ○ 活読むこと(2)イ・随筆を読み比べ、作者の考え方の違いについて考察する。 1 「花」や「月」における見解の違いを読み取りまとめる。（課題 1） 2 「恋」における見解の違いを読み取りまとめる。（課題				2

2 学 期	小話一四編【蛇足】【断腸】 〔知技〕(1)ア、イ／(2)ア、イ、ウ、キ ○活読むこと(2)ア 〔知技〕(1)ア、イ／(2)ア、エ 〔思判表〕読むこと(1)ア、イ、ウ、エ	【蛇足】 1 本文を正しく音読する。 2 脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。(手引き1) 3 「為スニ蛇ノ足ヲ者」が酒を失った理由を考える。 4 「蛇足」などの故事成語の意味や使い方を辞書で確認する。(手引き2・3) 【断腸】 1 本文を正しく音読する。 2 脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。 3 桓公が「猿ノ子」を得た者を罷免した理由を考える。(手引き1) 4 「断腸」という故事成語の意味や使い方を辞書で確認する。(手引き2) 【知音】 1 本文を正しく音読する。 2 脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。 3 伯牙と鍾子期の関係を読み取る。(手引き1) 4 「知音」という故事成語の意味や使い方を辞書で確認する。(手引き2) 【畏饅頭】 1 本文を正しく音読する。 2 脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。(手引き1) 3 「窮書生」が饅頭を食べるために考えた計略について確認する。(手引き2) 4 この話のおもしろさがどのような点にあるのか話し合う。(手引き3) □本単元の教材をもとにして生まれた故事成語や落語などについて知り、日本におけるさまざまな漢文受	○	○	○	〔知技〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 〔思判表〕 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 〔主〕進んで漢文の読み方を確認し、学習課題に沿って、故事成語の成り立ちとその意義や、漢文の受容について考えようとしている。	○	○	○	10
	唐詩一八首 〔知技〕(1)ア、イ、エ／(2)ア、エ 〔思判表〕読むこと(1)ア、イ、エ、カ	【宿建德江】【勸酒】【静夜思】 1 それぞれの作者について理解する。 2 詩を声に出して読む。(手引き1) 3 それぞれの詩の内容を捉える。 4 唐詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。(手引き3) 5 正確な現代語訳をする。 6 繰り返し朗読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。(手引き1) 7 訳詩を試みる。	○	○	○	〔知技〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 〔思判表〕 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 〔主〕進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。	○	○	○	6
	方丈記 〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 〔思判表〕読むこと(1)ア、イ、ウ、カ	□『方丈記』の内容と作者、時代背景についてまとめる。 【ゆく河の流れ】 1 全文を繰り返し音読し、その構成と内容を捉える。 2 「人」と「栖」と、「ゆく河の流れ」と「淀みに浮かぶうたかた」との類似点について考える。(手引き1) 3 「無常を争ふさま」とはどのようなことを踏まえて、『方丈記』で描かれる「無常観」について考える。(手引き2) □作品の現代的意義について考える。	○	○	○	〔知技〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 〔思判表〕 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 〔主〕進んで表現の特色に注意しながら作品の内容を解釈し、学習課題に沿って『方丈記』で描かれる「無常観」について考えようとしている。	○	○	○	8
	竹取物語 〔知技〕(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 〔思判表〕読むこと(1)ア、イ、エ、カ	□昔話としての「かぐや姫」について発表する。 □作品全体についての解説を聞き、概略を理解する。 □「なや竹のかぐや姫」を音読し、古文のリズムを味わう。また、大まかな内容を理解する。 □かぐや姫の誕生についてどのように描かれているか確認し、作品の伝奇的特質について話し合う。 □伝奇的特質に注目して、昔話などの話型を確認する。 【天の羽衣】 1 全文を通読し、概略を捉える。 2 かぐや姫の言動に注目し、その人物像について考える。(手引き1) 3 「天の羽衣」は、かぐや姫にどのような変化をもたらしたか、考える。(手引き2) 4 古文の意1「羽衣伝説」を読み、知識を広げる。 【富士の山】 1 全文を通読し、概略を捉える。 2 帝の心情と行動について考える。(手引き1) 3 「富士の山」の名前のいわれについて、本文の内容をまとめる。(手引き	○	○	○	〔知技〕 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 〔思判表〕 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 〔主〕進んで作り物語の内容を叙述に即して読み取り、学習課題に沿って物語に表れた人々の思いを捉えようとしている。				8

